資料３

平成２８年度　第１回　南風原町まちづくり住民会議概要

日　時：平成 28 年６月８日（水）１９時 10 分～20 時 50 分
場　所：南風原町役場３階　庁議室
参加人数：33 人

■住民会議の内容（次第）

１．開会
２．委嘱状交付
３．町長あいさつ
４．参加者の自己紹介
５．住民会議の役割について
６．これまでの取り組みと今年度の取り組みについて
７．基本構想タタキ台に関する確認事項
８．会長・副会長の選任
９．フリーディスカッション
１０．その他（次回スケジュールなど）
１１．閉会

■会長・副会長の選任

会長・副会長はともに自薦により、戸恒会長、蟇目副会長が選任された。

■フリーディスカッションの内容

「住民会議の役割」「前年度・今年度の取り組み」「基本構想タタキ台」について、事務局から説明を行い、それに伴う委員からの質疑・意見は以下のとおりである。

１．基本計画を検討する上で重要なこと等について

委員　：基本構想を検討する際にも話したが、まずは「防災」のしっかりした町を目指すということと、小中学校への電子教科書の導入が 2020 年を目標に予定されていることから、その辺の対応についての検討も重要になると考えている。

事務局：委員の中に熊本の震災の支援にいった者がいますので、支援に行って感じたことなどを教えてほしい。

委員（職員）：５月３１日から一週間、被災した熊本県宇土市の小学校に開設された避難所の運営支援に行ったが、災害から２ヶ月経った現在でも約 40 人の方が避難している状況であった。宇土市は、建物等の倒壊などの被害が少ない地域であったが、高齢者を中心として余震の恐怖から避難している方が多く、行政

として被災者の方の心理的なケアが重要であると感じた。

委員　：４月２７日～５月３日まで熊本県の大津町へ社会福祉協議会の職員として派遣された。大津町自体は、比較的被害が少ない地域で、全壊した建物も少なかったが、建物には赤色や黄色などの紙が貼られていて、住宅に入れない方が避難している状況であった。

支援の内容としては、災害ボランティアセンターの立ち上げ支援に携わってきた。ボランティアについては、平成７年の阪神淡路大震災の時に、行政職員達も混乱し、駆けつけた多くのボランティアのコーディネートが上手くできなかったということが教訓としてあり、今回の災害の支援においては、ボランティアの方にお願いできる作業とできない作業（危険な作業）の振り分けなど学ぶことも多かった。

委員　：赤紙、黄色紙と言っていたのは、応急危険度判定といって二次災害を防ぐことを目的に、建築士を中心とした判定士の資格をもったものが行うものである。南風原町において防災体制を強化する上では、建築士会等との協力体制を構築することも重要になると思う。

また、町の景観に関する取り組みが他市町村と比べても遅れていると感じているので、基本計画を検討する上でも景観は重要だと考えている。

委員（職員）：今年度、景観行政団体になることを予定している。それに伴って計画を今年度から３か年かけてつくることとなっており、南風原らしさというものを大切にした景観づくりを進めていきたいと考えている。

委員　：子どもたちの貧困や生活困窮者世帯への対応について、行政をはじめとしたネットワークをどのようにしてつくっていくのかが今後重要になると考えている。

２．次回スケジュールについて

事務局：次回のスケジュールについては、６月２０日の週での開催を予定しているが、詳細な日時は改めて調整したい。